



GPS/JIPS 安全性要約書

1. 製品名 (PRODUCT NAME)

VP-11N

2. 物質の概要 (GENERAL STATEMENT)

VP-11Nはフェノール樹脂をベースとした塗料および浸透ワニスです。この製品は褐色の液体で、人に有害であり、皮膚や眼に障害を及ぼす可能性があります。また、体内に取り込まれると、生殖能又は胎児への悪影響を及ぼす可能性が考えられます。さらに、がんを誘発させ、多くの臓器に障害を引き起こす可能性があります。これらの悪影響を防ぐために、ばく露される可能性の高い作業の場合には局所排気装置を利用し、強制的な全体換気が行われる屋内での取扱いを行う必要があります。

3. 化学的特性 (CHEMICAL IDENTITY)

| 項目 | 内容 |
|----------|------------------------|
| 化学名又は一般名 | フェノール樹脂 |
| 製品名 | VP-11N |
| 出典・備考 | 株式会社レゾナック発行の SDS 第 3 項 |

組成

| 化学名 | 濃度(%) | 化学式等 | 官報公示整理番号 | | CAS 番号 |
|----------|---------|---|----------|--------|------------|
| | | | 化審法番号 | 安衛法番号 | |
| フェノール樹脂 | 45±5 | — | 7-903 | 既存化学物質 | 35464-74-5 |
| フェノール | 10±5 | C ₆ H ₅ OH | 3-481 | 既存化学物質 | 108-95-2 |
| クレゾール | 10±5 | C ₇ H ₈ OH | 3-499 | 既存化学物質 | 1319-77-3 |
| ホルムアルデヒド | 0.5±0.3 | CH ₂ O | 2-482 | 既存化学物質 | 50-00-0 |
| メタノール | 35±5 | CH ₃ OH | 2-201 | 既存化学物質 | 67-56-1 |
| トルエン | < 0.3 | C ₆ H ₅ CH ₃ | 3-2 | 既存化学物質 | 108-88-3 |

4. 使用・用途と適用 (USES AND APPLICATIONS)

| | |
|------|----------|
| 主な用途 | 接着剤、バインダ |
|------|----------|

5. 物理化学的特性 (PHYSICAL/CHEMICAL PROPERTIES)

フェノール樹脂VP-11Nは、褐色の液体で、わずかに特異臭(フェノール臭)があります。常温で反応が進行し、また、酸化剤や酸との接触で反応する性質があります。直射日光を遮断し、酸化剤や酸を遠ざけて、25℃以下の冷暗所に保管して下さい。

| | |
|--------------------------|-------------------|
| 外観 | 液体 |
| 色 | 褐色 |
| 臭い | わずかに特異臭(フェノール臭)あり |
| 沸点又は初留点及び沸点範囲 | データなし |
| 可燃性 | あり |
| 爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界 | データなし |
| 引火点 | 18℃ |
| 密度及び/又は相対密度 | 1.04(15℃) [比重] |
| 溶解度 | データなし |
| n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow) | データなし |

| | |
|-------|-----------------------|
| 出典・備考 | 株式会社レゾナック発行のSDS第9,10項 |
|-------|-----------------------|

6. ヒト健康影響 (HEALTH EFFECTS)

| 危険有害性項目 | GHSによる分類結果および評価コメント |
|--|--|
| 急性毒性(経口) | 区分 4 飲み込むと有害 |
| 急性毒性(経皮) | 区分 4 皮膚に接触すると有害 |
| 急性毒性(吸入:気体) | 分類できない |
| 急性毒性(吸入:蒸気) | 分類できない |
| 急性毒性(吸入:粉じん、ミスト) | 分類できない |
| 皮膚腐食性/刺激性 | 区分 1 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷 |
| 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | 区分 1 重篤な眼の損傷 |
| 呼吸器感受性 | 分類できない |
| 皮膚感受性 | 分類できない |
| 生殖細胞変異原性 | 区分 1B 遺伝性疾患のおそれ |
| 発がん性 | 区分 1A 発がんのおそれ |
| 生殖毒性 | 区分 1B 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ |
| 特定標的臓器毒性(単回ばく露) | 区分 1 臓器の障害 (呼吸器系、心血管系、腎臓、神経系、中枢神経系、血液系、肝臓、視覚器、全身毒性) 区分 3 眠気又はめまいのおそれ (麻酔作用) |
| 特定標的臓器毒性(反復ばく露) | 区分 1 長期にわたる、または反復ばく露による臓器の障害(心血管系、肝臓、消化管、血液系、腎臓、脾臓、胸腺、中枢神経系、呼吸器、視覚器) |
| 誤えん有害性 | 分類できない |
| 出典・備考 | 株式会社レゾナック発行のSDS第2,11項 |
| <p>・GHS (Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals): 世界的に統一されたルールに従い、化学品を危険有害性の種類と程度により分類し、その情報をラベルで表示し、安全データシートを提供したりするシステムです。</p> <p>・区分に該当しない(非該当): GHSで定義される物理的性質に該当しないため、当該区分での分類の対象となっておりません。</p> <p>・区分に該当しない: GHS分類を行うのに十分な情報が得られており、分類を行った結果、GHSで規定するいずれの区分にも該当しないと考えられます。</p> <p>・分類できない: 分類を確定するための十分に信頼性のあるデータがなく、分類できません。</p> | |

7. 環境影響 (ENVIRONMENTAL EFFECTS)

| 危険有害性項目 | GHSによる分類結果および評価コメント |
|----------------|-----------------------|
| 水生環境有害性 短期(急性) | 区分 3 水生生物に有害 |
| 水生環境有害性 長期(慢性) | 分類できない |
| オゾン層への有害性 | 分類できない |
| 出典・備考 | 株式会社レゾナック発行のSDS第2,12項 |

| 環境中の運命・動態 | |
|-------------|--|
| 土壌中の移動性 | 情報なし |
| 残留性・分解性 | 情報なし |
| 生体蓄積性 | 情報なし |
| PBT/vPvBの結論 | PBT(環境中に残留し、高い生物蓄積性と強い毒性を有する)、vPvB(環境中に非常に残留し、非常に高い生物蓄積性を有する)には該当しないと考えられます。 |
| 出典・備考 | 株式会社レゾナック発行のSDS第12項 |

8. ばく露 (EXPOSURE)

| 詳細 | ばく露の可能性 |
|--------|---|
| 作業者ばく露 | <p>専用設備での船舶または大容量コンテナからの物質や調剤の移し替え作業において、粉塵、蒸気、エアロゾルの発生、流出、装置の清掃等に伴い、作業者への経皮・吸入ばく露の可能性ががあります (PROC 8b)。</p> <p>小型コンテナへの物質や調剤の移し替え (専用充填ライン、計量含む) 作業では、作業者が皮膚や呼吸器を介してばく露の可能性ががあります (PROC9)。</p> <p>塗布、コーティング等の作業に用いられ、蒸気・小滴・はねの発生、拭き取り作業、塗布表面操作等に伴い、経皮・吸入ばく露の可能性ががあります (PROC 10)。</p> <p>物質の染め込み、注ぎ込み、浸し込み、沁み込み、洗い落とし、洗い込み等の浸漬や注ぎ込みによる成形品の処理作業において、作業者が皮膚や呼吸器を介してばく露の可能性ががあります (PROC 13)。</p> |
| 消費者ばく露 | <p>当社製品は、一般消費者にて直接使用されることはありません。</p> |
| 環境ばく露 | <p>この物質は蒸気圧が大きい液体なので、当該物質の調合工程から、主に大気や水環境へ放出の可能性ががあります (ERC2)。</p> <p>塗装やコーティングに用いる接着剤や織物繊維の染料などの専門的な用途では、加工助剤を含まない物質が、物理的あるいは化学的手段によって材料内部や表面に結合されることがあります。これらは主に大気と水環境への放出が多いです。同様に、土壌環境へも放出も考えられます (ERC5)。</p> <p>熱硬化性樹脂、および重合プロセスにおいて化学物質 (架橋剤や硬化剤) を使用する際には、主に大気への排出が懸念されます (ERC6d)。</p> <p>塗装やコーティングに使用される接着剤や織物繊維の染料などの専門的な用途において、加工助剤を含まない物質は、屋内で使用される際に物理的または化学的手段で材料の内部や表面に結合することがあります。こうした工程においては、主に大気や水環境に排出が懸念されます (ERC 8c)。</p> |
| 注意事項 | <p>他の用途におけるばく露の可能性がある場合、推奨するリスク管理措置を参考に適切な措置を実施して下さい。</p> |

9. 推奨するリスク管理措置 (RISK MANAGEMENT RECOMMENDATIONS)

推奨するリスク管理措置により、8 項のばく露シナリオによる作業者、消費者および環境に対するリスクは、最小化可能と考えられます。

| 詳細 | 推奨するリスク管理措置 |
|-----|---|
| 作業者 | <p>技術的対策・局所排気・全体換気： 作業を行う際は、吸入や眼、粘膜、皮膚への接触を防ぐために適切な保護具を使用して下さい。特に、室内での作業の場合は密閉装置または局所排気装置を使用して下さい。また、火気、静電気、衝撃火花などの着火源にも十分に注意して下さい。作業後には、十分ながいと手洗い、顔の洗浄を行って下さい。</p> <p>許容濃度： 当該製品については、作業環境管理濃度として、5ppm (クレゾール)、0.1ppm (ホルムアルデヒド)、200ppm (メタノール)、20ppm (トルエン)、日本産業衛生学会により、作業環境許容濃度の勧告値として、5ppm (フェノール)、5ppm (クレゾール)、0.1ppm (ホルムアルデヒド)、200ppm (メタノール)、50ppm (トルエン) が、また、ACGIH (米国産業衛生専門家会議) により、TLV-TWA (時間加重平均) 5ppm (フェノール)、</p> |

| | |
|------------------|---|
| | <p>5ppm(クレゾール)、200ppm(メタノール)、20ppm(トルエン)、TLV-STEL(短時間被曝限度値)0.3ppm(ホルムアルデヒド)が公表されています。これらの値を下回るように、管理・制御して下さい。</p> <p>保護具: 作業を行う際には、以下の適切な保護具を直用して下さい:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 有機ガス用防毒マスク(濃度が高い場合は送気マスク) ・ 保護手袋(耐油性の手袋が望ましい) ・ 保護眼鏡または防災面(眼または顔面の保護具) ・ 直接皮膚に触れないように長靴と前掛け <p>これらの保護具は、作業中の安全を確保するために必要です。</p> <p>【リスク管理措置の例】 塗布、コーティング等での使用: 局所排気装置のある良好な全体換気の室内および防護率 80%以上(APF5)の保護手袋 専用設備を用いた大型容器への移し替え、小型容器への移し替え、浸漬、注ぎ込み等での使用: 強制全体換気の室内および防護率 80%以上(APF5)の保護手袋</p> |
| 消費者 | 当社製品は、一般消費者にて直接使用されることはないと考えられます。 |
| 環境 | 漏出物を河川や下水に排出しないようにして下さい。同様に、環境に漏れ出さないようにも注意して下さい。漏洩の予防策を講じ、定期的に漏れ出しの量を確認し、日常的な管理と取扱いに十分な注意を払って下さい。 |
| 特記事項(漏出時の緊急措置など) | <p>人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置: 漏出した場所の周辺にロープなどを使って、関係者以外の立ち入りを禁止して下さい。作業を行う際には適切な保護具を着用し、特に風下での作業は避けて下さい。</p> <p>環境に対する注意事項: 河川、下水、排水、および土壌への排出は厳禁です。漏出が発生した場合、保護具を着用した上で、飛散したものを掃き集めて密閉可能な容器に収集して下さい。掃除機を使用する場合は、防爆型の掃除機を使用して下さい。また、二次災害防止のため、付近の着火源となるものを速やかに取り除くと共に、着火した場合に備えて消火用器材(粉末、炭酸ガス、泡、乾燥砂、水)を準備して下さい。大規模火災の際には、泡消火剤等を用いて空気を遮断することが有効です。周辺火災の場合は、周囲の設備などに散水し冷却して下さい。移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移し、火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止して下さい。消火作業は保護具を着用し、風上から行って下さい。</p> |
| 注意事項 | 通常での取扱い、緊急時対応、廃棄時、輸送時の管理措置は、株式会社レゾナック発行のSDSの4,5,6,7,8,13,14項を参照して下さい。 |

10. 政府機関のレビュー状況 (STATE AGENCY REVIEW)

| 国際機関、各国当局によるレビュー | |
|-----------------------|---|
| IPCS (国際化学物質安全性計画) | <p>国際化学物質安全性カード</p> <p>https://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.display?p_lang=ja&p_card_id=0070&p_version=2 (フェノール)</p> <p>https://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.display?p_lang=ja&p_card_id=0275&p_version=2 (ホルムアルデヒド)</p> <p>https://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.display?p_lang=ja&p_card_id=0057&p_version=2 (メタノール)</p> |

| | |
|------------------------------------|---|
| | https://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.display?p_lang=ja&p_card_id=0078&p_version=2 (トルエン) |
| OECD (経済協力開発機構) | 高生産量化学物質(HPV chemicals)点検計画 https://hpcchemicals.oecd.org/UI/Search.aspx (フェノール, ホルムアルデヒド, メタノール, トルエン) |
| NITE-CHRIP (NITE化学物質総合情報提供システム) | https://www.nite.go.jp/chem/chrip/chrip_search/srhInput (フェノール樹脂、フェノール、クレゾール、ホルムアルデヒド、メタノール、トルエン) |
| 政府によるGHS分類結果 | https://www.nite.go.jp/chem/ghs/21-meti-2007.html (フェノール) https://www.nite.go.jp/chem/ghs/14-mhlw-2034.html (クレゾール) https://www.nite.go.jp/chem/ghs/22-jniosh-2092.html (ホルムアルデヒド) https://www.nite.go.jp/chem/ghs/09-mhlw-2012.html (メタノール) https://www.nite.go.jp/chem/ghs/12-mhlw-2003.html (トルエン) |

11. 法規制情報／GHS分類情報・ラベル情報 (REGULATORY INFORMATION／GHS CLASSIFICATION AND LABELLING INFORMATION)

法規制情報

| 適用法令 | 規制状況 |
|----------------------|---|
| 化審法 | 優先評価化学物質(フェノール, ホルムアルデヒド, トルエン) |
| 労働安全衛生法 | 名称等を表示すべき有害物 (フェノール, クレゾール, ホルムアルデヒド, メタノール) 名称等を通知すべき有害物 (フェノール, クレゾール, ホルムアルデヒド, メタノール, トルエン) 有機則 第2種有機溶剤(クレゾール, メタノール, トルエン)>5%含有) 特化則 第3類 (フェノール) 危険物 引火性の物 |
| 毒物及び劇物取締法 | 劇物 |
| 消防法 | 危険物 第4類 第1石油類(非水溶性液体) |
| 化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) | 特定第1種指定化学物質(ホルムアルデヒド 0.5%) 第1種指定化学物質(フェノール 10%, クレゾール 10%) |
| 国連分類 | 3 (引火性液体) |
| 国連番号 | 2924 引火性液体(腐食性) 他に品名が明示されていないもの |

GHS 分類情報

| | |
|----------|---|
| 物理化学的危険性 | 引火性液体 区分2 |
| 健康有害性 | 急性毒性(経口) 区分4 |
| | 急性毒性(経皮) 区分4 |
| | 皮膚腐食性／刺激性 区分1 |
| | 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 区分1 |
| | 生殖細胞変異原性 区分1B |
| | 発がん性 区分1A |
| | 生殖毒性 区分1B |
| | 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分1(呼吸器系、心血管系、腎臓、神経系、中枢神経系、血液系、肝臓、視覚器、全身毒性) 区分3 (麻酔作用) |

| | |
|--------------|---|
| | 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分 1 (心血管系、肝臓、消化管、血液系、腎臓、脾臓、胸腺、中枢神経系、呼吸器、視覚器) |
| 環境有害性 | 水生環境有害性 短期(急性) 区分 3 (毒性未知成分 約 45%) |
| ラベル情報 | |
| 絵表示又はシンボル |  |
| 注意喚起語 | 危険 |
| 危険有害性情報 | 引火性の高い液体及び蒸気 (H225) 飲み込むと危険 (H302) 皮膚に接触すると有害 (H312) 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷 (H314) 重篤な眼の損傷 (H318) 遺伝性疾患のおそれ (H340) 発がんのおそれ (H350) 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ (H360) 臓器の障害 (呼吸器系、心血管系、腎臓、神経系、中枢神経系、血液系、肝臓、視覚器、全身毒性) (H370) 眠気又はめまいのおそれ(麻酔作用) (H336) 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害 (心血管系、肝臓、消化管、血液系、腎臓、脾臓、胸腺、中枢神経系、呼吸器、視覚器) (H372) 水生生物に有害 (H402) |

12. 連絡先 (CONTACT INFORMATION)

| | |
|----------------|-----------------------------|
| 会社名 | 株式会社レゾナック 下館事業所 |
| 住所 | 茨城県筑西市小川 1500 |
| 担当部門 | 樹脂材料事業部 樹脂材料開発部 |
| 電話番号 / ファックス番号 | 0296-20-2320 / 0296-28-6209 |

13. 発行・改訂日、その他の情報

(DATE OF ISSUE / REVISION, ADDITIONAL INFORMATION)

発行日: 2023年10月31日

改訂:

| 改訂日 | 改訂項目 | 改訂箇所 | 版 |
|-----|------|------|---|
|-----|------|------|---|

記載の情報は、2023年1月1日 改訂版の安全データシート(SDS)に基づいています。

14. 免責条項 (DISCLAIMER)

安全性要約書は、化学産業界の自主的化学品管理の取組み(GPS/JIPS: Japan Initiative of Product Stewardship)の一環として作成されたものです。安全性要約書の目的は、対象品に関する安全な取扱いに関する情報を概要として提供することであり、リスク評価のプロセス及びヒト健康や環境への影響などの専門的な情報を提供するものではありません。また、安全データシート(SDS)や化学品安全性報告書(CSR)などのリスク評価に代わる文書として作成されたものではありません。本安全性要約書は、発行時点で入手可能な法令、資料、情報等のデータに基づいて、できる限り正確な記載に努めておりますが、すべてのデータを網羅したわけではありません。また、いかなる保証をするものでもありません。